

## 町田市立図書館の資料費が大変です！

山口 洋（中央大学文学部）

図書館の資料費についてご存知ですか。公立図書館は、市民のあらゆる情報要求に応えるために、様々な資料をあらかじめ収集します。資料費とは、その資料を購入する費用のことで、具体的には図書、雑誌、新聞、CD、DVD など様々な資料を購入します。

### \*資料費の現実

では現実はどうでしょうか。東京都立図書館が都内の公立図書館について「東京都公立図書館調査」という統計調査を毎年発表しています。これを使うと年度予算による都内各図書館の状況を把握出来ます。そこで「東京都公立図書館調査 令和4年度」(令和3年度実績で調査)を利用して検証してみます。

令和3年度予算における町田市立図書館の資料費は 34,454,000 円です。この数字をどの様に見たら良いか。そこで各自治体の資料費をその自治体の人口で割ることで、市民一人あたりの資料費を求めて比較してみます。資料費では、区部平均値は 310 円(最高 1240 円:千代田区、最低 139 円:品川区)、市部平均値 306 円(最高 561 円:多摩市、最低 106 円:町田市)。資料費のなかでも図書館資料の大半を占める図書費に限ると、区部平均値は 226 円(最高 937 円:千代田区、最低 94 円:品川区)、市部平均値 230 円(最高 476 円:多摩市、最低 80 円:町田市)という結果になります。町田市近隣の多摩地域各自治体の図書費は、多摩市(476 円)、立川市(331 円)、府中市(291 円)、調布市(255 円)、稲城市(252 円)、日野市(250 円)、八王子市(103 円)、町田市(80 円)となります。なお多摩市が突出しているのは、新しい中央館建設が関わっているのかもしれませんが。この統計によれば資料費、図書費

において町田市は都内最下位です。

### \*資料費がないとどうなるか

資料費がないとどうなるのでしょうか。日本では 1950 年に図書館法が公布され、無料で誰でも利用できる図書館が誕生しました。それ以前は、公立図書館であっても有料の図書館もあったのです。しかし 1960 年代頃まで、公立図書館の利用は低迷しました。日本図書館協会の調査により、要因の一つとして資料費の不足が指摘されたのです。資料費が不足する⇒魅力のある蔵書がない⇒利用者が図書館利用を諦めるという流れです。その後、資料費の増額や各種課題を克服しながら、現在の公立図書館サービスが確立されたのです。よって、資料費が不十分という状態は、図書館サービスにおいて見過ごしてはならないのです。

図書館の役割は利用者の求める情報を提供すること、求める本を確実に手渡すことで読書を支えているのです。読書には、調査研究のための読書、教養のための読書、娯楽のための読書がありますが、いずれも読みたいときに求める本を早く手に入れることで実現できます。読みたい時に読める、知りたい時に知ることが出来る、それを幅広く市民に対して実現することで、公立図書館は市民の知る権利を保障し、民主主義の基盤の一翼を担っています。

利用者の興味や関心は幅広く、図書館員はその全てに正確に素早く応えます。司書資格を取得した上に、自身の知識や技能、経験を総動員して取り組みます。それが出来てこそプロの司書です。町田市立図書館にはプロ意識を持った職員が多くいます。ただし、職員意識が高くても、資料が無ければ意味がありません。

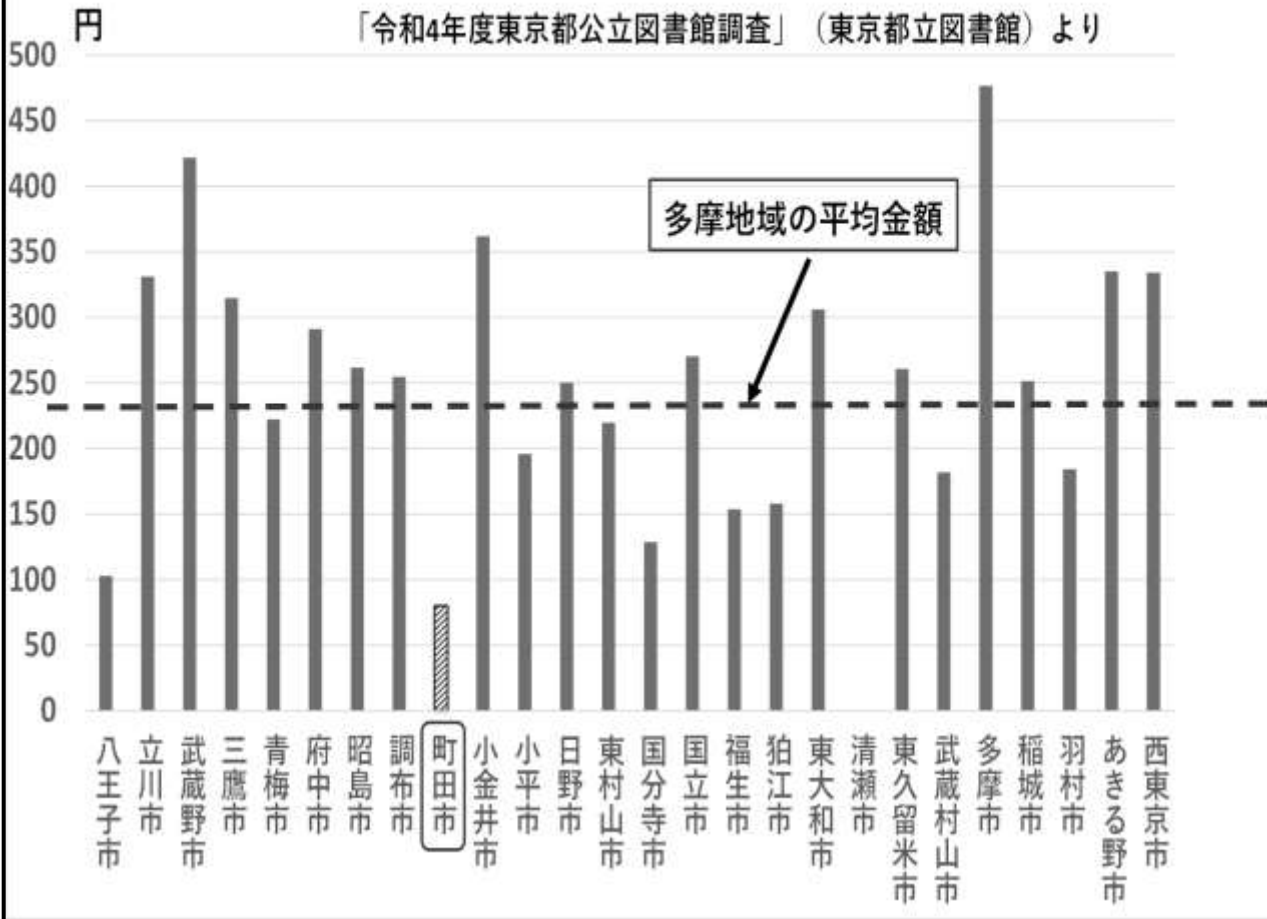
また図書館は、書架を本で満たせば終わりではありません。利用者の要求に応えるためには、蔵書内容を検討し、新しい資料を購入し続ける必要があります。内容が古くなった本は、必要に応じて最新情報を掲載したものに買い換えなければいけません。新刊書も幅広く選書の検討対象になります。一般書から子どもの本、調べるための各種辞典、視聴覚資料、雑誌等などを継続して買い続けなくてはなりません。最近では、出版された時に買わないと入手不可能な場合もあります。さらに図書館は、個人の能力を超えた収集能力を発揮できますから、利用者にとって未知の本との出会いもあるのです。町田市立図書館は図書館サービスの事例として注目される時代もありました。それには図書館サービス対して意欲のある職員集団と良く整った蔵書が不可欠であり、資料を購入するのに十分な資料費が必要なのです。

### \*市民として何ができるか

なぜ、このような状況になったのでしょうか。予算編成に関わる市当局や議会が、図書館の役割や実態について理解不十分だからかもしれません。私たち市民が、自分の住む自治体の公共サービスについて、その役割や必要性、現状を把握し、適切に要求していくことは、住民自治の第一歩です。図書館の資料費についても見過ごしてはいけません。資料費について法的な規定はありませんが、日本図書館協会は、住民一人当たりの貸出資料数(貸出密度という)の上位 10%の市町村図書館について、各種平均値を示す「貸出密度上位の公立図書館整備状況・2019」を発表しています。人口 30 万以上の自治体では、市民一人当たりの資料費は 190 円(2019 年度予算額)です。これも目標になりますが、多摩地区の平均値に近づけることが必要です。皆さんはどの様に考えますか。(会員)

## 多摩地域の図書館の1人当たりの図書費

「令和4年度東京都公立図書館調査」(東京都立図書館)より



# 読書の勧め—投資家的効率主義に抗するために—

山下 智彦

最近の日本では、物事を単純化して捉えた粗雑な議論やいい加減な考えが横行しているように感じる。その主要な原因の一つが読書離れだと思われる。社会に熟慮を取り戻すためには、読書の振興が必要であることを論じたい。

## 1 投資家的効率主義

「コスパ」と言い、「タイパ」と言うらしい。「コストパフォーマンス」(経済効率)、「タイムパフォーマンス」(時間効率)のことだ。同じものを得るなら少しでもコストを減らす、かける時間を減らす方がいいという考え方を表す。効率重視は、今の世の中、隅々にまで行き渡っていて、何事も効率の悪いやり方は罪悪だと信じられているとすら思われる。

ところで、効率という考え方は帰結主義(行為の価値の大きさをその行為がもたらす結果によって評価する考え方)だ。この考え方の難点の一つは、結果をどの時点で判定するかで評価が変わってくることだ。中国、前漢の『淮南子(えなんじ)』という書物に、「塞翁が馬」の故事がある。辺塞(国境の砦)近くに住む老人が、ある日飼った馬に逃げられた。しかし数ヶ月後、逃げた馬は駿馬を連れて戻ってきた。老人の子がその駿馬に乗っていたが、ある時落馬し足を骨折した。しかしそのおかげで兵役を免れ、死なずにすんだ、という話だ。馬に逃げられたことは良かったのか悪かったのか、どの時点で判定するかで評価は逆転する。吉凶禍福は転変する。物事終わってみなければ(つまり世の終わりが来るまでは)何が良かったのか悪かったのかわからない。これが賢者の考え方だ。

しかし、今の効率主義はこういう帰結主義の困難に気付かない。なぜなら、物事をごく短い期間の結果で評価するのを当然と心得ているからだ。映画を倍速で再生して、観た気になる。小説をあらすじと末尾だけ見て、読んだ気になる。他人と共通の話題をもつために編み出したはずの便法が、まっとうな鑑賞・読書を時間の無駄だと思わせる。すべて金銭・時間を基準に評価して、それ以外に失うものがあっても気付かない。これ

が「コスパ」「タイパ」だ。これは投資家的効率主義にはかならない。投資家はなるべく短期間で大きな儲けが得られるものに投資する。投資対象が10年後、20年後にどうなろうと知ったことではない。投資対象への愛もなければ、共感もない。問題になるのは効率よく儲けることだけ。こういう単純な刹那的効率主義に、いま社会全体が毒されてしまっているのではなかろうか。

社会には、平穩であること、安楽であること、平等であること、正義が守られていることなど、金銭的価値とは異なる多様な価値(基準)がある。その中でほかの価値基準には目をつぶって経済的豊かさだけを追求するというのが資本主義の戦略であったが、その戦略そのものが環境問題や格差問題などの差し迫った危機を生んだ元凶だったと、ようやく人間は気付いたのでなかったか。「金銭という尺度で全てを測るのでなく、多様な価値を尊重した生き方に切りかえるべきだ。いまはその最後のチャンスだ。いま必要なのは、多様な価値をどう調整し、どう物事を評価するかという課題に真向にに取り組むことであり、投資家的効率主義から一刻も早く抜け出すことだ……」と。

## 2 遅い思考と読書

とは言え、投資家的効率主義は根深い。「お得に」「効率よく」という考えを抜け出すのは難しい。その原因は日本人の思考力の衰弱であり、衰弱した思考力を鍛え直すには読書しかないというのがここで述べたいことだ。

ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー』(ハヤカワノンフィクション文庫)によれば、人間には、物事を直感的自動的に処理する速い思考と、事柄をゆっくり丁寧に考える遅い思考とがあり、普段は遅い思考は働かず、速い思考が前面に出て物事を処理するが、速い思考にはしばしば対処を間違えるという欠点がある、という。これはほぼ直感的対処と熟慮・熟考の対に対応すると見なせる。自然界で生きる時、何か物事に遭遇した場合に一々対処方法を考えていては危険から逃れることもおぼつかないから、遺伝や経験から得た情報を元に

して予めある程度決まった反応ができる状態になっている方が生存に有利であるはずで、これが速い思考だろう。一方、定型の判断、定型の思考、定型の行動は型通りの状況には有効だが、状況の違いや変化に対応できない。この時こそ遅い思考の出番で、速い思考の性急な判断に待ったをかけ、改めて状況をよく検討し、なすべき行動を熟慮する。さて改めて考えてみると、現代社会で要求されているのはほとんど速い思考ばかりだということに気付く。出勤のための車の運転然り、会社の業務然り、日常の雑談然り。遅い思考の出る幕は、ほぼ皆無である。それどころか、インターネット上にあふれる人格を攻撃することばや差別的、攻撃的表現は、みな速い思考のなせる技だし、暴力も戦争も短慮の仕業だ。対して、遅い思考は無為に月日を過ごすうちに筋力衰え、いざとなっても力が出ないという次第か。

今の世の中、遅い思考をもう一度鍛えて速い思考に対抗しようとする人など多くはなさそうだが、そうしようにも有効な手立てが見つからないという人もいよう。そこで考えたのだが、遅い思考を鍛えるのに一番いいのは文章を書くこと、これは間違いない。ただしどんな文章でもいいというわけではない。自分の考えを丁寧に人に伝える文章。自分の中の曖昧な考えとことばとの間でその差を少しでも埋めようとしてことばを探し、且つことばにしなから曖昧な考えを少しずつ明確化し、理屈としておかしくないか、話の筋が通るかを考える。こうすれば、普段は怠けている遅い思考も、この時ばかりはと全力で働いてくれるはずだ。とは言え、確かにこれは万人向きではない。万人向きなのは、読書において他には無い。しかしここでも、どんな読書でもいいというわけではない。内容のない文章を読み流しても、怠惰な遅い思考は目覚めてくれない。目覚めさせるための最良の方法は、内容のある面白い本を夢中になって読み耽ること、ありきたりだがこれしかないだろう。読

む時に大切なのは、なるべくゆっくり読むこと、決して先を急がないこと。わからないところがあれば一旦読み進めるのをやめてよく考えてみるが、それでもわからなければ付箋でも貼っておいて、後から考えることにして先を読む。こんなやりかただろうか。文章が深く理解できるようにになればなるほど読む速さは遅くなる、これが私の実感だ。なぜなら深く読めれば読めるほど、読む作業は書く作業に近づくからだ。この表現は言いたい内容を尽くしているか、こういう展開で事柄が適切に表現し得ているか、こんなことを考えながら読む時、読むことと書くこととの垣根は何時の間にか消えてしまうのだ。

### 3 読書の恩恵

本を読むと、ただ自分の遅い思考が鍛えられるだけではない。本にはそれぞれ異なる視点、異なる見方があり、読むことはそこから物事を見ることになるし、時には物語の登場人物に一体化して、その心を通して物事を感じるようになる。多くの書き手の様々な価値観に触れて、人間の多様さに気付くこともある。しかも本を読む時、人は好きなどころで一時読むのをやめて考えることもできれば、前に戻って読み直すこともできる。自分の理解を確認することもできれば、感動をかみしめることもできる。こういう豊かな体験は読むことからしか得られない。この点で、書くことは読むことに大きく譲る。

何事も本を読むことに代わりうるものは無い。熟慮熟考を育てるものとして、読書に勝るものは無い。投資家的効率主義に抗することができるものは、読書しかない。だから万人に読書の機会を提供する図書館は熟慮の拠点であり、一市長の短見で廃館されることなど、あつてはならない。私はそう思う。

なお、本文中で「本」と言い「読書」と言ったとき、念頭にあったのは全て紙の本であり、電子書籍は入らない。両者の違いについては、いずれ論じてみたい。

## ◎田中優子さん講演会「平和のための学問と大学のあり方」

新たな戦前と言われる今、学問と大学も曲がり角に立っています。大学は人々の幸せのための学問を生み出す場、若者の希望を育む場です。そこで軍事研究をさせようという動きが強まっています。この問題について法政大学前総長の田中優子さんと一緒に考えます。

日時:5月6日(土)18:00~20:30(開場17:40) 会場:和光大学ポブリホール鶴川

定員:300名(事前予約不要)資料代500円子ども・学生 無料

問合せ tkodera2023@gmail.com 主催 田中優子講演会実行委員会

# 『学習まんが人物館 スティーブ・ジョブズ』

大谷和利(監修) 上川敦志(まんが) 小口覺(シナリオ) 小学館 2013年  
推薦:長谷川綾(はせがわりょう) 町田市立鶴川第四小学校5年生

『どん欲であり続けろ、おろか者であり続けろ』そして、僕はいつも、自分自身がそうありたいとずっと願い続けてきました。そして、いま、皆さんが卒業し、新たな人生を始める時に、皆さんにもそうであってほしいと願っています。どん欲であり続けろ、おろか者であり続けろ。卒業生の皆さん、(聞いてくれて)とてもありがとう(本書巻末)。この言葉は、がん宣告を受けたスティーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業生に向けたスピーチの一節です。このように胸に迫る言葉を口にできるスティーブは、どのような人生を送ったのでしょうか。

わたしがこの本を読むことにしたのは、友だちが使っている「iPhone」やテレビコマーシャルで見た「Mac」が気になっていたからです。スティーブ・ジョブズの名前を聞いたことはありましたが、くわしいことは知りませんでした。本を読んでみて、「我われの目標は、会社を大きくすることじゃない、すごい製品を作ることなんだ」(125ページ)という彼の言葉も、私は好きになりました。「すごい製品」を作りだすために必死になるなんて、すてきだと思います。

スティーブ・ジョブズは、1955年2月24日、アメリカ、カリフォルニア州サンフランシスコで生まれました。小学校でスティーブはいたずらっ子でした。友だちの自転車のカギにいたずらをしたり、ニセのポスターをはりだして学校を動物だらけにしたりするなど、いろいろなさわぎを起こしていました。そんなスティーブは物を作るのが得意でした。16歳のある日、スティーブは友人の紹介でスティーブ・ウォズニアックと知り合いました。同じスティーブですが、ウォズニアックは5歳年上で、高校の先輩でした。ウォズニアックもスティーブと同じ物作りが得意でした。

2人はコンピュータの製品化にはげみ、1977年に株式会社としてアップルコンピュータを設立しました。サンフランシスコで開催されたコンピュータフェアでは、6色のリンゴのロゴがついた彼らのコンピュータは

スタイリッシュさと高い性能が評価され、たくさんの注文を受けました。1984年に新製品「Macintosh」を発表した時は、四角いコンピュータが音声と画像で「ハロー、ぼくはMacintoshです」と自己紹介して大好評でした。

しかし、スティーブが「Aクラス(一流)以外の人材はいらない」など横暴なことを多く言った結果、ウォズニアックたち優秀な人材がアップルコンピュータ社から去っていきました。そして、社内では彼にMacintosh部門のトップをやめてもらう決断がなされ、1985年に退社することになりました。それからスティーブは持っていたアップルコンピュータの株を売却して現金を手に入れ、新しい会社「NeXT」と「Pixar」を経営しました。スタンフォード大学でゲスト講師をした時に知り合った女性ローリーンと結婚し、長男リードが生まれたのもこのころでした。

1990年以降に業績が悪化していたアップルが1996年にスティーブに復帰を呼びかけると、スティーブは自らの希望で無給のアドバイザーとなりました。2000年にCEO(最高経営責任者)に就任すると、2001年に音楽プレーヤー「iPod」を、2007年にはスマートフォン「iPhone」を発売し、世界的なヒット商品となりました。同時に社名をアップルコンピュータからアップルに変更することで、コンピュータ会社のイメージからの変革をはかりました。

スティーブは2003年、48歳の時に医師からすい臓がんをわずらっていることを知らされました。2008年に健康状態が悪化して2011年6月に新しいMacOSのプレゼンを担当した後、CEOを辞任しました。同年10月にスティーブ・ジョブズは56年の人生に幕を下ろしました。わたしが生まれたのは、その2ヵ月ほど後です。私も中学生になったら自分の「iPhone」を持たせてもらえるかもしれません。そうなったら、スティーブの想いをいつも手で感じられそうです。

\*町田市立図書館は、6冊所蔵しています(3/28)

# 『調べ物に役立つ 図書館のデータベース』

小曾川真貴(著) 勉誠社 2022 年

紹介: 藪田 碩哉

図書館と言えば「調べもの」のために欠かせない施設であることは誰でも知っている。何か分からないこと、詳しく調べたいことがあれば図書館へ出向く。ご承知の通り図書館の本は「日本十進分類法」できちんと整理されているので、テーマがはっきりしていれば、それにあたる棚を探してみると、これほと思う本が何冊かは見つかる…そんな具合に図書館を利用するのが普通だが、案外、そのテーマについていちばん肝心な本を見落としてしまうかもしれないし、貸し出し中で目に触れないこともある。

そこで、大量の情報を集めて整理し、テーマの用語を入れるとたちどころに検索して、関連図書や新聞や雑誌の記事を探し出してくれる「データベース」が作られている。身近なところでは、だれもがスマホでアクセスしているグーグルなんかもその一つだが、出てくる内容は雑多で、雑学レベルならまだしも、ちょっとまとまなレポートを作ろうと思ったら、ググるだけでは心もとない。やっぱりもっと網羅的で信頼度の高いデータベースを利用するに如くはない。そうしたデータベースの中には、利用契約をして料金を払わなくてはならないものがあるが、公共図書館へ行けば、さまざまなデータベースをタダで使わせてもらえる。本書は、データベース利用初心者のために懇切丁寧に書かれたガイドブックであり、データベースの活用によって図書館の価値が一段と高まることを教えてくれる。筆者は一応研究者の端くれで、そこそこデータベースも使っては来たのだが、知らなかったことや知っていても利用の仕方が不十分だったことが多々あった。特にテーマの絞り込みや、その資料の所在場所を見つけ出すやり方など、目を開かれたことが多かった。

本書の内容に即して見てみよう。「1. ふだん使っている図書館の本を探す」では、いきなり図書館に行くのではなく、図書館のホームページから検索して当たりを付け、蔵書があっても貸し出し中でないかどうか確かめ、他館からの取り寄せも含めて注文しておくことを勧めている。これはまあ、図書館を日常的に利用している人

にとっては常識だろう。筆者も先日「質的研究」というテーマを急に調べる必要が出てきて、図書館サイトからあちこち探して本を選んでリクエストした。メールの案内が来て駆けつけるとお目当ての本がしっかり揃えてあって、5, 6冊の本をリュックに詰め込んで楽しく家に帰り、所定の目的を果たすことができた。

これに続く、2.新聞、3.雑誌、4.論文については教えられることが多かった。新聞の記事検索が利用しやすくなっていて、昔のマイクロフィルム保存のものから1980年代以降のテキストデータまでのアクセスの仕方が詳しく紹介されている。雑誌記事については自宅からアクセスできる「国立国会図書館サーチ」の使い方がパソコン画面の写真付きで解説されていて、さっそく自分の書いた記事があるかどうか試してみると本人が忘れていたような記事まで出てきてうれしかった。論文検索については CiNii Research と Google Scholar は筆者も使っているが、3 目目の J-STAGE はまだ使ったことがなかったのでやってみたい。5.法令・判例については全く未経験で、これもいろいろ調べてみたいと思ったし、6.官公庁情報については、これまでは各省庁のホームページを見るが多かったが、もっと総括的に調べることのできる e-GOV ポータルというのがあることを知った。市町村の行政情報については細かい解説はないが、本書を参考にアクセスして新鮮かつ有益な情報を探し出して市民活動に役立てていきたいと思う。あとは7.百科事典と8.その他のデータベースの紹介、巻末には掲載されたデータベースの一覧が URL と QR コード付きで載っている。コラムとして添えられたデータベースの作成者へのインタビュー記事も読み物として面白い。

自宅のパソコンでアクセスできるデータベースも数多くあるのでいろいろ当たってみよう。本書を読んだ人は、本書を片手にさっそく図書館を訪れて、あれやこれやのデータベースの使い勝手を試してみたいことになる。(会員)

\* 町田市立図書館には未所蔵です(3/28)

# 鶴川図書館は地域で愛され、よく利用されていることがわかりました

## ～図書館利用者アンケートから～ 鈴木真佐世（鶴川図書館大好き！の会）

昨年12月に行われた町田の図書館利用者アンケートのまとめ（『2022年度町田市立図書館利用者アンケート調査結果』）のデータから鶴川図書館の特徴、利用者の特徴を駅前図書館と比較しながら見てみました。

①来館手段⇒鶴川図書館は徒歩での来館（37.4%）と共に、駐車場があるため自動車での来館者が多い（44.2%）。駐車場のない駅前図書館には徒歩の来館が多く44.7%、次いで公共交通機関の利用が25.9%。徒歩や公共機関で出にくい人たちのためにも、鶴川図書館に駐車場があることは重要。

n=2215	全館	中央	さるびあ	鶴川	金森	木曾山崎	堺	忠生	鶴川駅前
公共交通機関（電車・バス）	17.2%	49.0%	5.8%	3.4%	0.5%	8.9%	7.5%	3.5%	25.9%
自動車	28.4%	5.0%	25.2%	44.2%	53.0%	20.3%	37.1%	61.9%	11.2%
自転車	17.3%	10.3%	32.0%	15.0%	16.9%	16.3%	18.3%	17.3%	18.1%
徒歩	37.1%	35.6%	36.9%	37.4%	29.7%	54.5%	37.1%	17.3%	44.7%

②職員の対応⇒満足と答えた人は鶴川図書館が最も多く、91.7%。理由は、親切で丁寧な対応。声掛けが多く、説明がわかりやすい。話しやすいなど。小さい図書館こそ利用者と職員の距離の近さを感じられる。

n=2215	全館	中央	さるびあ	鶴川	金森	木曾山崎	堺	忠生	鶴川駅前
満足	77.4%	75.4%	79.0%	91.7%	76.1%	72.6%	73.9%	83.4%	73.2%
やや満足	21.7%	23.3%	21.0%	7.8%	22.9%	26.1%	24.4%	15.8%	26.3%
やや不満	0.7%	0.5%	0.0%	0.5%	0.5%	1.2%	1.7%	0.8%	0.5%
不満	0.2%	0.7%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③総合満足度⇒「満足」は鶴川図書館が第一位。満足の理由は、便利で利用しやすく、気軽に借りやすい（4件）など。やや不満・不満の理由は、鶴川図書館がなくなる。本の種類が少ないなど。

n=2215	全館	中央	さるびあ	鶴川	金森	木曾山崎	堺	忠生	鶴川駅前
満足	53.0%	56.2%	54.9%	59.1%	53.3%	42.9%	38.0%	58.6%	56.3%
やや満足	43.0%	39.7%	43.1%	34.5%	42.6%	52.4%	55.1%	39.4%	41.0%
やや不満	3.4%	2.8%	2.1%	5.9%	3.1%	4.2%	6.4%	1.2%	2.4%
不満	0.6%	1.3%	0.0%	0.5%	1.0%	0.5%	0.4%	0.8%	0.3%

⑥利用者の年代⇒各館70代以上が多いのは共通、駅前図書館で10、20代が比較的に多いのに対し、鶴川図書館は、30、40、50代が多く、子育て世代が子どもと一緒に来館し、児童書を借りていることがうかがわれる。

n=2215	全館	中央	さるびあ	鶴川	金森	木曾山崎	堺	忠生	鶴川駅前
10代	10.7%	15.9%	15.4%	4.4%	2.6%	3.6%	6.3%	17.0%	13.2%
20代	6.3%	11.4%	2.5%	2.5%	3.6%	2.7%	2.9%	5.1%	11.6%
30代	12.3%	10.1%	16.4%	16.2%	8.2%	5.8%	16.4%	16.2%	10.9%
40代	18.7%	13.4%	20.9%	22.5%	22.2%	16.1%	22.3%	19.0%	18.1%
50代	14.4%	14.4%	13.9%	18.1%	25.3%	12.1%	9.7%	12.3%	12.7%
60代	13.0%	13.4%	10.0%	12.7%	20.1%	13.8%	11.3%	9.5%	13.4%
70代以上	24.7%	21.3%	20.9%	23.5%	18.0%	46.0%	31.1%	20.9%	20.2%

☆以上のアンケートからでも、鶴川図書館と駅前図書館は、利用者の年代、居住エリアが違って来館手段も違っていることがわかります。また、来館者数と貸出冊数の推移データを見ても、利用の仕方が違っていることがわかります。駅前図書館は閲覧やイベントでの来館は増えていますが、貸出冊数はコロナ前の2019年度には戻っていません。一方、鶴川図書館では、来館者数はコロナで大きく減りましたが、貸出冊数はコロナ前に近づいています。

☆蔵書構成でも大きな違いがあります。児童書の割合が、駅前図書館では22%であるのに対し、鶴川図書館は43%で町田市の8館の中で児童書の割合が一番大きいのです。鶴川地域の人たち、特に子どもたちにとって大事な存在である鶴川図書館を民営の「図書コミュニティ」にせず、夫々の館の特徴を生かして、鶴川駅前図書館と共に市立図書館としての存続することを心から願います。（会員）

※『2022年度町田市立図書館利用者アンケート調査結果』は図書館ウェブサイトから閲覧できます。（次頁参照）

## 2022 年度町田市立図書館利用者アンケート調査結果が公表されています (3/20)

町田市立図書館で 2022 年 12 月(鶴川駅前図書館は 11 月)に実施された利用者アンケートの調査結果が、図書館ウェブサイト(右 QR コード、またはトップページ⇒図書館の取り組み⇒調査・統計)から PDF ファイルで閲覧できます。図書館利用、企画事業(おはなし会、イベント類)、電子書籍サービス、情報通信機器利用、総合満足度などの項目があります。最後の図書館へのご意見では、記述式の意見が掲載されており、利用者の生の声が伺えます。



### ひろば

定例会報告 2023. 2. 28 (火)

16:00~印刷発送作業等:

伊藤・清水・手嶋・守谷・山口

18:00~中央図書館中集會室 出席:石井・伊藤・清水・手嶋・守谷・山口

#### 議題

##### 1.会報について(手嶋)

\*No274:「鶴川図書館再編後のあり方」に関する市民説明会について和光大学の岩本陽児さん執筆。地域住民意見も掲載。・親地連講演会の案内記事追加 \*No275:巻頭言は町田市立図書館の資料費(山口)、「読書の勧め」(山下智彦さん)など、原稿締切:3/19、3/28 発行予定。

##### 2.今年度の活動計画について(手嶋・守谷)

「町田市 5 ヵ年計画 17-21」、「町田市立図書館のあり方見直し方針」、「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」へ対応、鶴川図書館大好き!の会、まちだ未来の会と連携活動。

##### 1)「すすめる会」の取り組み

**図書館嘱託労との話し合い:**鶴川図書館の廃止や町田市立図書館指定管理者制度導入に向けた職場を守る取り組みを課題に話し合いを持つ。嘱託労から福田委員長、院丸副委員長、野口書記長が出席、会から石井、伊藤、守谷、手嶋が出席。嘱託労の困難な状況についても話合う。\*2025 年は大量の更新該当者がおりその雇用が維持できるか大きな課題。\*雇止め阻止が課題。  
**講演会:**来年度実施に向け検討したい。若い世代、子育て世代が図書館を身近に感じ、気軽に楽しもうと思える様なお話をさせていただいてはどうか。

**図書館見学会:**新型コロナウイルスの感染が終息していないので、現段階では実施困難。

**資料費の増額を要求する請願署名:**6 月議会に向け取り組み、賛同団体を募る

##### 2)鶴川図書館大好き!の会の取り組み

2023 年度も鶴川図書館が公立図書館として存続するよう活動。\*「鶴川図書館の再編に伴う市民協働型の運営について」会議実施 (1/29) \*市主催の「市民向け鶴川図書館再編説明会」(2/8) 30 名参加、(2/12)約 50 名参加 \*「知恵の樹」No274 掲載

\*今後の取り組み:公立図書館として存続しない場合は、行政不服審査請求を検討。市議会で鶴川図書館存続の請願が採択されており、鶴川図書館廃止決定の不当性を対象。

##### 3.中央図書館印刷室の閉鎖について(手嶋)

「すすめる会」として団体利用者懇談会の開催を求める。\*今後は紙媒体を少なくし、PDF ファイル配布、HP 閲覧を勧めたい。(手嶋)

#### 報告

##### 1.第 19 期図書館協議会第 9 回定例会(清水)「知恵の樹」No274 掲載

・移動図書館は 3 台のうちの 1 台を小型化することが決定され、今後 3 台運用は当面とのみ回答あり。  
・24 年度から生涯学習推進計画は廃止、教育プランに組込まれる。図書館部分について図書館協議会に全く諮られなかった。松本図書館協議会委員長からその点の問題が指摘され、吉田生涯学習審議会会長も図書館協議会における協議が必要であると発言。

##### 2.団体及び個人からの報告

学校図書館を考える会:富安陽子さん講演会(3/26)  
《編集後記》知恵の樹No.275 をお届けします。今回、急遽編集担当が変わりました。町田の図書館活動をすすめる会は、公立図書館の発展を願う、市民と図書館職員、行政職員、教員、研究者など様々な人々が立場を超えて、自由に意見交換をしながら町田の図書館のよりよい姿を模索しております。今あるサービスをよりよくして、次世代に伝えることが、現在を生きる私たち市民の務めであり、住民自治の第一歩です。社会における公立図書館の必要性を今こそ強く感じます。(Y)